

## あ と が き

「今の子どもたちや、これから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し、子どもたちが就くことになる職業の在り方についても、現在とは様変わりすることになるだろうと指摘されています。また、成熟社会を迎えた我が国が、個人と社会の豊かさを追求していくためには、一人ひとりの多様性を原動力とし、新たな価値を生み出していくことが必要となります。

我が国の将来を担う子どもたちには、こうした変化を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力を身に付ける事が求められます。」

(平成 26 年 11 月 20 日、中央教育審議会諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」より一部抜粋)

「東山梨教育研究」も昭和 38 年の初刊以来、53 号を数えます。東山梨地区の多くの先輩方が、これまで築き上げてこられた、すばらしい実践とその成果は実証済みです。前述の審議会の内容を受けて私たちは、さらに教育の在り方について一層の進化を図らなければなりません。「基礎的な知識及び技能の育成」、「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力の育成」、「主体的に学習に取り組む態度の育成」、いわゆる「学力の三要素」から構成される「確かな学力」を育むことは基本となります。そして児童生徒一人ひとりが互いを認め合い、尊重し合いながら自己実現を図り、幸福な人生を送れるようにすること、さらにより良い社会を築いていくことができるよう、「教えながら」「学ばせる」こと。そのためには、私たち一人ひとりがさらに研鑽を積み、自己の資質向上を図らねばなりません。そのうえで、東山梨全教職員が一丸となり、創意工夫を重ねて教育活動の充実を継続させていきたいと思えます。

終わりにになりましたが、「東山梨教育研究・第 53 号」の発刊にあたり、お忙しい折に玉稿を賜りました山梨市教育委員会教育委員長様、並びに東山梨教育協議会会長様をはじめ、貴重な原稿を寄せられた諸先生方、山梨市、甲州市両教育委員会の財政面でのご援助に対し心より感謝申し上げます。なお、本冊子の表紙は教育協議会「図工・美術部会」の谷澤糧子先生（松里中学校 2 年・土屋由実さん作）にお願いしました。ご協力ありがとうございました。

### 【編集委員】

|                 |       |
|-----------------|-------|
| 山梨市教育委員会教育長     | 丸山 森人 |
| 甲州市教育委員会教育長     | 保坂 一仁 |
| 峡東教育事務所所長       | 佐藤 政幹 |
| 峡東教育事務所指導主事     | 柴田 幸也 |
| 東山梨教育協議会事務局次長   | 小串 吾郎 |
| 東山梨教育協議会研究推進委員長 | 小椋 規雄 |
| 山梨支会研究推進委員長     | 日野原和貴 |
| 山梨支会研究推進副委員長    | 向山 敢  |
| 甲州支会研究推進委員長     | 小幡 香織 |
| 甲州支会研究推進副委員長    | 小川 壮太 |

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 発行日   | 平成 27 年 4 月 1 日       |
| 発行責任者 | 東山梨教育研究<br>編集実行委員会    |
| 編集責任者 | 東山梨教育研究<br>編集実行委員会事務局 |
| 印刷所   | 昭和堂印刷                 |